



あおいにし

令和5年度修了号

令和6年3月15日

浜松市立葵西小学校

みんなのポケットに入っていますか～たくさんの思い出～

【修了式の校長の話】

今、皆さんの姿を見ると、1年生はすっかりお兄さんお姉さんの顔になってきました。最高学年になる5年生は、とても頼もしくなっています。2年生・3年生・4年生もきりっと引き締まった顔つきになりました。

あっという間の1年間でした。振り返ってみると、楽しいこと、うれしいことばかりではなかったと思います。叱られたこと、嫌だったこと、悲しかったことがあったかもしれません。でも、いろいろな経験をしたからこそ、みんなは心も体も成長したと思います。

1年生。できることがたくさん増えました。話の聞き方や話し方も上手になりました。4月からは新1年生に教えてあげる番です。

2年生。みんな元気いっぱい、新しいことや難しいことにチャレンジしました。生活科や校外学習でもたくさんのことを学びました。

3年生。周りの友達のことを考えて行動する力が高まりました。時々けんかをするこもあつたと思うけれど、仲良くすごせました。苦しいことに対しても、くじけないで頑張る力も付いてきたと思います。

4年生。10歳という節目を迎え、今まで自分が多くの人に支えられて生きていくことに気付くことができました。いよいよ高学年です。みんなの持っている力を思う存分発揮してください。

5年生。6年生を送る会の運営も見事でした。この1年の経験を通してリーダーになるための力を付けてきました。いよいよ4月からは最高学年です。学校の顔としての活躍がとても楽しみです。

さて、今日のこの式は、令和5年度の最後の式。皆さんの修了式です。今日、代表の子に渡した修了証書は、皆さん一人一人が1年間の学習に対し、よく努力し、その学年の全てを学び終えたことを証明する物です。今日、担任の先生からもらう「あゆみ」のファイルの中に一人一人の物が入っています。ここにいる全員が、4月から新しい学年に進級することができ、とてもうれしく思います。

葵西小学校を支えて、これまで皆さんを引っ張ってくれた6年生は、卒業式に向けて練習や準備をしてきました。皆さんも、6年生が葵西小から元気に巣立っていけるよう祈っててください。

さて、ここで、校長先生が今年、みんなに話したことを簡単に振り返りたいと思います。

4月は、「やればできる」の話とともに、WBC日本代表の栗山監督の「できるかできないかではなく、やるかやらないかが大事だと考えていた。」という言葉を紹介しました。

5月は、命について考える全校の集いで、のび太の御先祖様の話をして、「命のつながり、みんなも命のバトンを受け継いできている。」ことを話しました。タイムマシンで、若い頃ののび太のパパに会いに行つて、パパが夢を追いかけたら自分が生まれなかつても知れないとわかつても、「パパが幸せになれるなら僕はそれでも構わない。」というのび太の優しさがわかる言葉も紹介しました。

7月は、「今やっていることがそのままつながつて未来になる」という意味の「未来は現在と同じ材料でできている」という言葉を紹介しました。

8月は、みんなの心の中にある「二人の自分」の話でした。「二人の自分」と向き合う時は、弱い自分に打ち勝つ強い人になつてほしい。そして、「最後に決めるのは自分」という話でした。

11月は、いじめ撲滅集会のとき、「有言実行」と「4つの勇気」の話をしました。4つの勇気覚えていますか。昇降口に掲示してあるので、また見てください。

12月は、「ドラえもののポケット」の話でした。校長先生の秘密のポケットも見せました。頑張れば頑張っただけ、みんなのポケットの中身は増えていくので、この1年でたくさんの大切な物が入れることができたと思います。

1月は、「辰年の意味」と「3学期は次の学年の0学期」という話でした。充実した0学期にすることができましたか。また能登半島地震に対する「やす子」さんの言葉を紹介して、「当たり前」のことが当たり前に行えることに感謝しながら、今私たちがいるこの場所で、精一杯、日常を生きること」の大切さを伝えました。

2月は、「心とびら」の話をしました。人の心の扉を開くということは、イソップ童話の北風と太陽の話に似ていて、心の扉を開くお日さまのような暖かさとは、ふわふわでポカポカした、周りの友達の「思いやり」や「やさしい言葉」ですね…という話でした。

さあ、みんなはどのくらい、話を覚えていてくれたでしょうか。校長先生の話したことが、一つでも多く、みんなの持っているポケットの中に入れていてくれるとうれしいです。

最後になりますが、風邪を引いたり、けがをしたりしないように気をつけて、よい春休みにしてください。1学期の始業式で、また元気な姿を見せてくれることを楽しみにしています。